

通候を見請候間討果遺恨を晴し可申と、みき所持之脇指を持出、はる儀ハ仙藏所持之刀を持出、右平内へ夫敵又者親之敵之由申罵り、兩人ニ而切懸り候得者平内儀も渡合せ、夫々打合疵請候所仙藏儀者跡より罷越助太刀致候得ども、町内より大勢罷出被捕押候故、討留不申候旨申之候、

○下

〔徒然草<sup>上</sup>〕宿河原といふ所にて、ぼろくおほくあつまりて、九品の念佛を申けるに、外より入くるぼろく、もし此御中に、いろをし坊と申ぼろやおはしますと、尋ければ、其中より、いろをしこ、に候、かくの給ふはたぞとこたふれば、まら梵字と申者なり、をのれが師、なにがしと申人、東國にていろをしと申ぼろにころされけり、と承りしかば、其人にあひ奉りて、恨申さばやと思ひて、尋申也といふ、いろをしゆ、しくも尋おはしたり、さる事侍りき、こ、にて對面し奉らば、道場をけがし侍るべし、前の河原へまいりあはん、あなかしこ、わざざしたち、いづかたをもみつぎ給な、あまたのわづらひにならば、佛事の妨に侍るべしと、いひさだめて、二人河原へ出あひて、心行ばかりにつらぬきあひて、ともに死に、けり、○下

〔荒山合戦記〕能登國石動山衆徒蜂起附同所荒山合戦之事

櫻井勘介鍵付テ、般若院ガ首ヲ取、其頃般若院ガ弟子ニ荒中將トテ、師匠ニ劣ラヌ惡僧ノ有ケルガ、勘介ガ般若院ガ首提タルヲ見テ、日ノ敵師匠讐遁スマジト云儘ニ、大ノ鉾矢打加セ、能引テ放矢ニ、勘介ガ胸板ヨリ總角付ノ板マデ、筈ノ隠ル程グサト射込タルバ、阿ト云聲トトモニ倒タリ、

○下

〔近代公實嚴秘録<sup>九</sup>〕鶴岡傳内横死之事

清水新次郎とて小姓組の有しが、此者は鶴岡と日頃兄弟の契約をなし、念友の中成しが、今度傳内横死、其跡断絶して、まかもうたれ損となり、誰有て其仇を報すべき者もなければ、甚無念成事